

「まちづくりを語り合う会」

を開催しました。

○：町民

■：議員



8月23日(土)に、町民の皆さんと議員が双方向で意見交換を図る場として「まちづくりを語り合う会」を開催しました。

参加者22名と議員が、テーブルごとに分かれてリラクセスした雰囲気です。約1時間語り合いました。

語り合いの中で出た意見などを要約してお知らせします。

※議長、副議長はオブザーバー参加

つどいテーブル

町民4名

阿部 利徳(創成会)

石垣加奈子(日本共産党)

堀江 美夫(新緑会)

○大人が夜に寄れる居場所がない。

■夜の時間に働きたい人が少ない。

○カフェなど誘致しても、大手ばかり入ってくる。事業者への町の支援は。

■学生アルバイトなど

の働き手も少なく、大手が入りやすい。小規模事業者への空き店舗補助金はあるが、中規模事業者も対象となるよう町に要望する。

○ごみの分別が都会は種類が少ないが、音更は多くて大変。冊子を見て出すが、間違っていないか心配。

■温暖化・沸騰化の時代、個人でできる温暖化対策はごみの分別だと思ふ。環境を考えると分別して資源になるものを使うようにしたら良い。最初は大変だけど慣れていく。

すずらんテーブル

町民4名

重堂 聡(日本共産党)

上野 美幸(創成会)

松浦 波雄(公正クラブ)

○外国人に対する防災対応は。

■災害に対する対応は外国人のみならず要配慮者とともに重要と認識している。町では外



和やかに語り合い、あっという間の1時間

国人に対し防災情報のメールを多言語で配信しており、転入時にチラシの配布やホームページの紹介を行っている。外国人に対する防災講座等も行っており、今後も充実させていきたい。

○音更高校への通学路が暗い。

■街路灯は、高校生からの要望もあり町として

でも増設する努力はしている。

なのはなテーブル

町民4名

柴田 秀樹(創成会)

佐藤 和也(新緑会)

小澤 直輝(創成会)

○歌や音楽活動をしており、「メロディーライン」に関心を持っている。

■商工会が命名したもので、インターチェンジから十勝川温泉までの道路は四季の風景を楽しめるコースとなっている。

○「十勝川温泉で足湯 ↓メロディーラインで景色を楽しむ ↓柳月でコーヒーを飲む」というコースをよく使っている。

■十勝川温泉には新たに屋内遊戯施設を建設予定である。また、周辺にはワイナリーやチーズ工場などの観光資源もある。



えぞりすテーブル

町民4名

堀江 靖祥(町民クラブ)
不破 尚美(新緑会)
新村 裕司(公正クラブ)

○人口減少が始まり格差が広がる中、議員は行政とのパイプ役として自分の足で現地に赴き町民の声を拾って町政に活かしてもらい、その結果を町民に伝えてほしい。

■議員活動を伝えるため、個々に努力をしている。

■農業者としての関係性を意識しながら活動している。年2回ほど活動報告のほがきを送付している。

○人口減少という宿命的な課題に対して、それを前提として町民に参画し協力してもらうことが議会の取組として重要ではないか。

■若者との協働のまちづくりとして昨年、総務文教常任委員会の活

動で音更高校や帯広大谷短大の学生と意見交換を行ったところ大変有意義であった。

きたぎつねテーブル

町民3名

伊藤 萌里(新緑会)
阿部 秀一(笑顔みらい音更)
平子 勇輔(創成会)

○町内会に加入していたが、役員の負担感などがあって退会した。広報紙等が入手にくくなり、町に関する情報が入ってきにくい状況がある。抜けてみて、つながりが必要だったと感じる面もある。

■町内会の加入率の低下はどの地域においても課題。有事の際に隣近所の顔がわかるよう、自主防災組織などの醸成が必要。町の公式ラインで様々な情報発信を行っており、活用してもらいたい。

○引きこもりがちなお年寄りに遊び心を持ってもらうために、外出

機会の確保を。外に出かけられる興味を持つようなきつかけづくりと、コミュニティバスの効率的な運行、AIの活用など、公共交通の利便性を高めてほしい。

■コミバスはフリー降車を導入し好評。今年から新たな停車場を設けるなど、運行ルートを見直し変更した。自身も他の自治体で導入している自動運転バスを視察しており、引き続き調査研究していく。AIデマンドバスについては近隣自治体のデータを集計して導入を検討できないか担当部署に意見を出していく。アクティブシニアについては、高齢者の活動範囲が狭まることがないよう、様々な状況の方を支援できるように積極的に推進したい。



かわあいせテーブル

町民4名

堀井 正憲(音和の会)
神長 基子(日本共産党)
三浦 和子(新緑会)

○友人が来町したときに、観光目的で連れて行ける場所が少ないように思う。2泊以上する場合は暇を持て余しがちになる。

■町内で立ち寄れる場を提供し、滞在型観光を充実させることは従来からの課題。模索中ではあるが、観光事業者らを中心に色々な挑戦をしている。観光のアイディアは住民の皆さんからも寄せて欲しい。

○役員の成り手不足で町内会を解散しようという話がある。これから地域での見守りが必要な人たちが増えていく中で民生委員の方たちは大変だと思わないか。



町内会でコミバスツアー (北蘭西町内会)

■民生委員は国の委嘱なので、町が対応できるかは難しい部分もある。

■町内会の維持については議員も皆、問題として捉えている。

「議会だより」について
ご意見をお寄せください

Tel 42-2111

Fax 42-3575

E-mail gikaisoumuka@town.otofuke.hokkaido.jp